

州・北海道・常磐・地方の炭鑛業者は、出炭の制限を協定實行せり、大正九年に於ける平均一ヶ月の出炭額は二、五六八、〇〇〇佛噸なりしが

翌大正十年には平均月額約四十五萬佛噸を減せり。(完)

紀伊日高郡南部町堺の洪積統

中村新太郎
黑田德米



南部町堺洪積統

紀伊國田邊南部兩町の間には下部鮮新統（中新統とも思へるが横山博士の新しい研究によると鮮新統なりとの事である）の基底を爲せる角礫狀礫岩が廣く發育して居る、此の礫岩上に不整合に新しき地層が小區域に點在して居つて海岸に沿うて海拔二十米突の海岸段丘を形成して居る、其の一は南部町の南方約二十八町なる堺の海岸路傍に西南面した斷崖に露出して居る、海面から上に約六米突半は殆んど水平に位して居る下部鮮新統の角礫狀礫岩がある、此の上を

不整合に被覆して居るのは厚さ八米突の暗藍色粘土で一部砂質を帯びて居る。そして次の如き貝化石並に少許の木葉及植物の破片を包藏してゐる。この含化石帯の上は赤褐色の土壤で内に

Ostrea palmipes S. werby. (南部産)



礫を含み六米突の厚さがある。化石帯と基磐の第三紀層との不整合は化石産地の南方で明瞭に観察される、それは化石産地に接して直に基磐の礫層が高い處まで突出してゐるのである。貝

化石は次の如き十四種を同定した。

- 1 *Arca granosa* Linné.
- 2 *Ostrea palmipes* Sowerby.
- 3 *Dosinia japonica* Reeve.
- 5 *Clemetia* (?) sp.
- 4 *Paphia variabilis* Gmelin.
- 6 *Tellina* cf. *nitidula* Dunker.
- 7 *Barnesia laevis* Sowerby.
- 8 *Umbonium costatum* (Valenciennes) Kiener.
- 9 *Stomatella lyrata* (A. Adams) Pilsbry.
- 10 *Turbo coronatus* Gmelin.
- 11 *Pelamides cingulata* Gmelin (*P. fluviatilis* Pot. et Mich.)
- 12 *Turritella* cf. *multirata* Adams et Reeve.
- 13 *Natica* sp.
- 14 *Ringicula areolata* Gould.

以上の化石は能く遠江の洪積統の貝類に似て居て總て現存種である。(横山—濱名湖畔象化石参照) 一、二特有な點を述べて見ると此の内 *Arca granosa* は現に田邊灣に現存せるものを見ない、

Ostrea palmipes は臺灣及フィリッピンに現存するがそれより北には發見されてゐない、此事や三河豊橋の段階地から出たねぢれた貝殻を持つ

た *Tridacna* n. sp. (それは九州以南にのみ現存する屬である) から見ても三河や紀伊の洪積統成生の時代は今よりも少しく暖かつたのであらう

蘭領ボルネオの金剛石

春 本 篤 夫

ボルネオは昔から優秀な金剛石産地として聞えてゐたが、前に二三の記載のある以外その産出状態採掘方法等についてはあまり知られて居らぬ、こゝに簡單にそれを述べやう。

寶石の母岩はボルネオに於てはまだ發見されてゐない。英領及び蘭領の所々に於て、二三の異つた母岩らしきものが報告されてゐるが之等の報告は確證を缺いて居る。現在では全部沖積層から産出する。その中實際に價値ある産地は唯二ヶ所に過ぎぬ。即ち島の南部バンゼルマシ

ン (Bandjemasin) 港の附近バット河に沿うたマルタボエラ (Martapoera) と西海岸中央部に於るポンチャナク (Pontianak) 附近のランダク (Landak) とがそれであつて特に前者の方が重要である。

以前歐人が露天掘や掘鑿の様な近代式の大規模の方法を取り入れ様として、入り込んで來たが、現今では採掘業は、全然、マライ人とジャブ人との雜種なるバンゼル人によつて行はれてゐる。金剛石は舊河床をなす現世の礫層の中か